

学校教育目標	「わたしの生活は、私が創ります」 ○学んだことを生かして主体的・対話的に考え、深く学び続ける子(知) ○互いのよさを認め合い、よりよい生き方を求め、協力し合う子(徳) ○命と体を大切に、心身共に健やかな体をつくる子(体) ○進んで人のために役立つようとし、地域に愛着をもつ子(公) ○広い視野をもち、チャレンジし続ける子(開)				
	学校概要	創立 44 周年	学校長 菅谷 泰尚	副校長 正木 久美	2 学期制
児童生徒数： 358 人		主な関係校： 富岡東中学校 並木中学校 並木中央小学校 並木第四小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	並木・富岡東中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
『豊かにかかわり、じっくり考える子』 この3年間での重点 ○問題を発見し、解決する課題を設定する力 ○情報を活用し、分析的に思考・判断する力	富岡東中学校 並木中学校 並木第一小学校 並木中央小学校 並木第四小学校	「場に応じた心地よいあいさつをし、 相手(他者)と円滑なコミュニケーションを図れる子」 ・「あいさつ運動」を通して、児童生徒の目を地域に向け、地域と自分とのコミュニケーションについて考える機会を設ける。 ・授業参観、乗り入れ授業等を行うことによって、児童生徒の実態を把握し、円滑なコミュニケーションを行うことができるよう支援をしていく。

中期取組目標	『豊かにかかわり、じっくり考える子』を育てます。 ○生活・並一タイムを核とし、“ひと・もの・こと”との関わりを深めながら、子どもたちが学ぶ楽しさを味わうことができるようCreativeな学び創りを目指します。 ○すべての教育活動を通して、これからの社会を生き抜くための資質・能力を育みます。 ○家庭・地域と連携し、地域の教育力を活かしながら、子どもが安心して生活できる学校を目指します。 ○一人一人の持ち味を活かし、全員で学校づくりに参画していく職員を目指します。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知 〔授業改善〕	①少人数指導・TT指導・教科分担制を取り入れ児童の理解と意欲を高め基礎・基本の定着を目指す。 ②日課表にスキルタイムを設け基礎的・基本的な知識や技能の習熟と外国語及び外国語活動の充実を図る。 ③生活科・総合を中心に問題解決の資質・能力を育むCreativeな授業ができるように、指導力向上を目指した研究を進める。
担当 研究開発運営部	
徳 豊かな心 〔道徳・人権・児童理解〕	①児童会活動のあいさつ運動、校内や地域とのふれあいを通して、自ら進んであいさつをする子どもを育てる。 ②異学年交流や道徳の時間などの充実、また本物を体験できる活動を展開し、自己肯定感が高められるようにする。 ③職員会議内に児童理解の時間を設け、児童の状況を共通理解する。また児童指導に関する情報の共有化、規範意識を育む指導の取組、課題解決に向けた協働型による実践を日常化する。
担当 児童指導運営部	
体 健やかな体 〔健康〕	①家庭と連携し「早寝・早起き・朝ごはん」など基本的な生活習慣の定着を推進するとともに、「いきいきタイム」「さわやかスポーツ」を通して日常的に体力向上を図る。②食に関心をもち、自ら健全な食生活を実践するための資質・能力を育成する。③学校保健委員会を開催し健康習慣が身に付くように保護者や地域及び関係機関と連携を図る。
担当 総務運営部・体育	
公開 自分づくり 〔キャリア教育〕	①生活・総合を核とした「並一タイム」を中心に、体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者とのかかわりの中で一人ひとりの自己有用感を高めるようにする。 ②「ひと・もの・こと」との出会いを通し、学ぶことや働くことの意義を考えられる場を位置づける。
担当 評価改善・研修運営部	
いじめへの対応	①全職員による日々の丁寧な指導で全児童の規範意識を育て、年間を通していつでも誰でも相談しやすい状況を継続する。 ②「情報は速やかに組織的に専任へ集約」「すぐに複数の職員で見通しをたてる」「的確な初動をとる」「しっかり記録を取る」の定着を進める。 ③全職員における定義の認識の共有を確実なものとする。
担当 児童指導運営部	
人材育成・ 組織運営(働き方)	①定期的に教務会、学年主任会を行い、ミドルリーダー、学校リーダーが全体を見通して学校運営していく場を設定する。 ②5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーや経験の豊富な教職員が適時、講師となって充実した活動を推進する。③電子申請システムやミラ임、Google meetなどを有効に活用し、事務の簡便化、効率化を図り、働き方改革につなげる。
担当 教務部・メンター研	
生活・並一タイム 〔カリキュラムマネジメント〕	①子どもの実態をもとに「学年暦」の見直しを定期的に進める。 ②「材の分析シート」を活用して「学びどころ(壁)の設定」「教科との関連」を設定し、カリキュラムマネジメントを改善していく。 ③生活科・並一タイムの授業実践を通して教育課程の見直しを図る。
担当 研究開発運営部・重点研究	
特別支援教育・国際教室 〔インクルーシブ・多文化共生〕	①複数の職員によるアセスメントとY-PIに基づいた児童理解を行い、組織内で適切に共有し、専任を窓口として必要に応じて関係機関との連携を図り、「子ども」「家庭」への支援の充実を図る ②多様な子どもたちを誰一人取り残さない、一人一人の子どもたちの困り感に一人一人の職員が寄り添う ③誰もが安心して「学び」「過ごす」を最重要視した国際教室の運営、活用を進める
担当 児童指導運営部・国際	
Pハート隊・学校運営協議会 〔地域連携〕	①保護者・Pハート隊の協力を得て、子どもたちの学校生活をサポートし、児童の安心感や達成感、豊かな学校生活につなげる。 ②学校運営協議会でいただいたご意見を、教育活動へ生かす。
担当 教務部	
幼保小交流・小中連携 〔異校種交流〕	①幼保小中連携、金沢養護学校との交流を進める中で、思いやりの心を育む。 ②子ども理解とスタートプログラムに基づき、幼児期から小学校への安心感、小学校から中学校への円滑な接続を目指す。 ③小中ブロックで「あいさつポスター」の交流をしたり、「あいさつ運動」に力を入れることで、あいさつを通して主体的に他者とコミュニケーションをとる姿勢を身につけるようにする。
担当 研究開発・異校種交流	